

「難治性うつ状態を呈する患者と健常者の行動特徴および心理所見に関する検討」 に関するご協力をお願い

<概要>

杏林大学医学部付属病院の精神神経科では、2015年1月から難治性うつ状態を呈する患者を対象とした検査入院を実施しており、この検査入院のプログラムでは行動評価と心理的評価を行っています。本研究では、これらの評価法および検査法を健常人の方で実施し、今後の難治性うつ状態の治療方針決定に資する基礎的情報にすることを目的とします。

<対象者の基準>

この行動評価と心理的評価は、難治性うつ状態を呈する患者さんと比べるため、精神疾患を持たず、難治性うつ状態を呈していない健常人の方を対象にしています。

選択基準:

- ・現在精神科受診をしていない方
- ・研究参加に関して文書で同意が得られた20歳以上の方
- ・PHQ-9 (Patient Health Questionnaire-9) 日本語版(資料4)の結果が4点以下の方
- ・60歳以上の対象者にはHDS-R (Hasegawa's Dementia Scale-Revised) 日本語版(資料5)を実施し、21点以上の方

除外基準: 属性(資料3)、PHQ-9、HDS-Rの調査に基づき以下の判断を行います。

- ・うつ病の診断を受けている方
- ・双極性障害の診断を受けている方
- ・アルコールまたは薬物依存の方
- ・認知症の診断を受けている方
- ・重篤な身体疾患を合併している方
- ・切迫した希死念慮を認めている方

<場所>

杏林大学医学部付属病院

<内容>

- ・行動評価のための創作作業(参加前後の様子、作業遂行課題の結果など)
- ・描画テスト(House-Tree-Person-Person Test:HTPP)
- ・デモグラフィック項目(年齢、性別、学歴、婚姻状況、同居家族、など)
- ・PHQ-9 日本語版(健康状態の調査)
- ・HDS-R 日本語版(簡易な知能評価)

<費用・謝礼>

参加していただいた方に対しては、行動評価のための創作作業への参加時に2,000円、描画テストへの参加時に2,000円の謝礼をお支払いさせていただく予定です。研究参加に伴う不利益としては、2日間に渡り、計4時間程度を要することが挙げられます。

お問い合わせ ※質問などのご依頼は、下記までご連絡ください。

- ・杏林大学医学部精神神経科学講座 研究責任者 渡邊衡一郎 TEL:0422-47-5511(代表)
- ・杏林大学保健学部作業療法学科 説明担当者 早坂友成 TEL:0422-47-8000(代表)